## 「大正フロイデの夢～これからの五年」

大正フロイデ
団長　西風　勝

大正フロイデが平成十八年に発足し、去る九月四日に五周年記念コンサートを盛大に開催できた事に誇りと感謝の念で一杯です。

さて、これからどうするか？新しい体制の下でまずは、第六回「第九」演奏会に向けてゆっくり練習を重ねていくわけですが、団として今後五年の目標をどこに置くかについて「夢」を語ってみようと思います。

『夢の一』

大正フロイデの発足の機縁となった、「大阪俘虜収容所」は一九一四年（大正三年）に開設されました。

その一〇〇年記念として、二〇一四年（平成二十六年）団を組んでドイツに行きませんか！そして、どこかで第九を歌ってみませんか？これから三年間、行きたい方は一日・五〇〇円貯金を始めてみませんか！三〇万円ぐらいは積み立てられますでしょう。

『夢の二』

五周年記念コンサートは歌の実力も課題でしたが、財政的にも厳しかったです。だからまだ次のことを語るのは時期尚早だとも思うのですが、一〇周年記念コンサートを考えましょう。その会場も曲名も未定ですが、今から考え始めましょう。

団員の方も「五年先は分からへんわ」でしょうけど、夢を持ってもう一度いずみホールのような舞台で、今度は余裕を持って歌ってみませんか！

万雷の拍手を受けながら。

## いずみホールに大正フロイデの歌声が響きわたった！！

合唱指導
小川　はじめ

皆様、本当に本当にお疲れ様でした。又、良く頑張って見事な演奏をして下さいました。心からおめでとうを言わせて頂きます。

厳しい練習を全力で頑張り抜いて、少しずつですが着実に力を付けて来られた集大成が、あのいずみホールでの感動の演奏を生み出したのだと思います。

皆様、本当に良く声が出るようになって来られたし、歌も上手くなられましたね。

この記念公演でレクイエムのソロを歌わせて頂いて、皆様と御一緒に演奏出来ました事、私のこの上ない喜びで御座います。

私もより一層、皆様方の秘めたる力を最大限に発揮して頂けるお手伝いが出来ますように努力致して参りますので、全国に、いや、世界に通じる大正フロイデを目標に、より一層の研鑽を積んで頑張って行きましょう。

## 人間だけに与えられたミューズの世界に感謝！

総合プロデューサー
西本　ひろみ

五周年記念リサイタルも終わり、又新たなスタートが始まりました。

思い起こせば、西村東一前区長が今から六年半前に「大正区で第九を歌いたいけど」と相談され「そんな事簡単よ。広報で『区長と第九を歌いましょう。』と見出しを付けて募集しましょう」と提案しました。当初、女性八十人男性五人位と記憶しています。

「とりあえず練習を開始して、足りない所は私が責任もって補いましょう」と、西村さんにまず安心して事業に取り組んで頂く事を考えました。

記念すべき一回目の演奏会では、男声合唱、オーケストラ、ソリスト全て私が古くから付き合っている仲間です。関西でもトップクラスのアーティストに支えられる事によって、音楽の世界に一歩踏み出して貰える事を願いました。

又、指揮者の高谷さんはまだ駆け出しで、合唱団と共に育って欲しいと思い、お願いしました。

三年程経過した時に、バリトンの張間さんが「中学生の吹奏楽も参加したら、大正区の活性化にもなる」と提案されました。私自身もキッズ音楽に力を注いでますので嬉しかったです。

合唱団もしっかりまとまって来たので、合唱の真髄といえる曲を皆様に味わって欲しいと、比較的取り組み易い『レクイエム』（モーツアルト）を取り入れました。人数の多い合唱団ならではの大曲です。

四回目の演奏会の一部に少しだけ演奏しましたね。その時からリサイタルでは、全曲出来ると確信しました。

上海万博の帰りに飛行機の中で、アルトの松田さんが「いずみホールで演奏会したいですね！」と、目を輝かせて言った顔が今でも思い出されます。

思いを持って前に進んで行くと、必ず向こうから何か見えてきます。折角のチャンスを見逃さないよう、心の目を開けましょう。長い練習期間を経過して、本番は一瞬に終わります。人間にだけ与えられた、ミューズの世界に感謝！！

世話人の皆様には、本当に良くして頂きました。又、一人ひとりの団員の皆様もひたすら付いて来て頂き、ありがとうございました。

練習は少しきつかったかも分かりませんが、楽しかったです

**募　集**

大正フロイデ

団報編集長

募集します